

中期目標・中期計画 (2025～2029)

公益財団法人 大学基準協会

I. 大学の質保証・質向上の推進と多様な発展への支援 (vision 1, 2)

1. 機関別認証評価を通じた支援

| 中期目標 | | | |
|---|---------|--|--|
| <p>機関別認証評価を通じて、大学・短期大学の質保証と質向上に貢献する。各大学・短期大学の個性を尊重し、評価できるよう評価基準や評価方法の見直しを進め、大学の多様な発展を支援する。また、評価結果を大学・短期大学の自己改善活動に積極的に活用できるようフォローアップ体制を強化し、質向上のための持続的なサポートを提供する。</p> | | | |
| 中期計画 | | | |
| <p>(1) 評価基準や評価方法の見直しと柔軟化の推進 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短期大学のグローバルな展開に対応しその後押しをする基準を策定・改定する。 生起する社会的課題等も見据えながら、社会的責任を果たしつつ大学が多様に発展できるような基準の策定・改定をする。 申請大学・短期大学に対して評価の有効性に関するアンケート調査を実施し、その結果に基づき評価方法等の見直しが必要な場合、評価委員会や基準委員会で検討する。アンケート結果に基づく改善点等についてはウェブサイトで公表する。 | 2025 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 大学・短期大学を取り巻く環境変化（少子化の進行、グローバル化の進展、技術革新の加速化、社会・産業構造の変化、社会における価値観の変化など）について、情報を収集する。 トランスナショナル教育（TNE: Transnational Education）の質保証に係る基準について検討する。 評価の有効性を検証し、評価方法等の改善・向上を図るため、申請大学・短期大学に対するアンケート調査を実施する。その結果に基づき、改善点を検討し、ウェブサイトで公表する。 | <p>基準委員会、大学評価委員会、短期大学評価委員会</p> <p>企画・調査研究課、評価第1課</p> |
| | 2026 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き情報を収集するとともに、事例等を踏まえ、基準に反映すべき事項を検討する。 TNE の質保証に係る基準について、引き続き検討する。 弾力的措置の適用や機関別認証評価における分野別評価の活用等の柔軟化を図る取り組みの有効性を検証する。 | |
| | 2027 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2028 年度 | <ul style="list-style-type: none"> 弾力的措置の適用や分野別評価の活用等、柔軟化を図る取り組みの有効性を検証を踏まえ、第5期に向けた基準改定の方向性を検討する。 第5期に向けた基準改定の方針を策定し、公表する。基準 | |

| | | | |
|--|--------|---|--|
| | | <p>改定の方向性に対する大学・短期大学の理解を深められるよう、第4期でのグッドプラクティスを紹介するなど、効果的な発信に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5期の基準改定に向けた具体的な基準（案）の策定作業を開始する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、第5期の基準改定に向けた具体的な基準（案）の策定作業を行う。 引き続き、状況に応じて、大学・短期大学の理解を深められるよう、第4期でのグッドプラクティスを紹介するなど、効果的な発信に取り組む。 第5期の基準改定にあわせて、第5期の評価体制や評価方法についても検討する。 | |
| <p>(2) フォローアップ体制と評価プロセスの強化 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価結果に基づき、申請大学・短期大学が改善点を具体的に理解・把握できるようフォローアップ体制を整備する。例えば、大学・短期大学と各評価委員会によるフォローアップミーティングを開催し、評価結果における指摘事項の改善に向けた大学・短期大学の計画・方策やその取り組み状況等について両方で認識共有を図り、協議する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 評価後のフォローアップについて、大学・短期大学のニーズを調査し、改善報告書の検討のみならず、大学・短期大学が評価結果における指摘事項を受けての改善方策を計画する際の支援方法を検討する。 | <p>基準委員会、大学評価委員会、短期大学評価委員会</p> <p>企画・調査研究課、評価第1課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に評価を受けた大学・短期大学のうち、フォローアップを希望する大学・短期大学に試行的に改善計画・方策に関するミーティング等を実施する。 フォローアップ方法の検証、振り返りを行い、改善点や今後の課題を抽出し、検討する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 2025年度（第4期初年度）に評価を受けた大学からの改善報告書の提出を受けて、フォローアップの有効性を検証する。 実施実績を踏まえ、第5期での実施のあり方を検討する。 | |
| (3) 評価者育成と制度全体の信頼性向上 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 評価者登録者（各大学・短期大学からの推薦者）に対する | 大学評価委員 |

| | | | |
|---|--------|--|--|
| <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価者の質向上を図るための研修プログラムを充実させ、評価者としての専門性を高める。 | | <p>高等教育に係る政策動向、海外の事例等の高等教育や評価に係る幅広い知識の習得につながる機会の充実に向けて検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価者（当該年度に評価に携わる者）による評価を振り返る機会（例えば、年度末に評価結果を考えるためのミーティング等）について検討し、試行的に実施する。 ・ 評価者が必要に応じて各自で視聴できるオンデマンドコンテンツの開発に取り組む。 | <p>会、短期大学評価委員会</p> <p>企画・調査研究課、評価第1課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の評価の事例に基づき、評価者が基準に対する理解を深め、多様な大学・短期大学を評価できるよう、ケーススタディを検討し、評価者研修セミナー等にとり入れる。 ・ 引き続き、オンデマンドコンテンツの開発に取り組む。 ・ 評価者研修の取り組みを整理し、より充実すべき取り組みや新規に実施する取り組みを検討する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度と同様に、第4期における評価の事例を収集・分析し、評価者研修にとり入れるとともに、オンデマンドコンテンツの稼働を含め、新たな研修の機会等、評価者研修の充実を図る。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価者研修プログラム及びその実施方法等について効果を検証し、改善・発展の方策を検討する。 ・ 第5期に向けて評価者に必要な知識・スキル等を整理し、その習得に適した評価者研修プログラムを検討する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、評価者研修プログラムの内容・方法について効果を検証し、改善策を実行し、評価者研修の充実を図る。 ・ 評価者に必要な知識・スキル等の可視化、その習得に向けた評価者研修プログラムを完成させる。 ・ 評価者研修プログラムに関する情報を発信、正会員大学からの積極的な評価者の推薦につながるよう働きかける。 | |
| (4) 質保証における学生参画の実装 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部質保証での学生参画を促進させるべく、大学向けガイ | 基準委員会 |

| | | | |
|--|--------|--|-----------------|
| <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準策定や評価プロセスなど、質保証における学生参画を実現させるため、基準委員会において検討を開始し、第4期期間内に導入する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ ドブックを作成及び公開する。 ・ 大学評価における学生参画の実装に向け、海外の事例を調査する。 | <p>企画・調査研究課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学向けガイドブックを、必要に応じて改定する。 ・ イベント等において、内部質保証での学生参画事例の共有を図る。 ・ 海外の事例調査（前年度継続）。 ・ 大学評価における学生参画の実装に向け、学生の研修プログラムの検討を始める。 ・ 実地調査において学生が関与する場면을拡大する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学向けガイドブックを、必要に応じて改定する。 ・ イベント等において、内部質保証での学生参画事例の共有を図る。 ・ 学生評価者の候補者リクルートを試行的に行う。 ・ 学生の研修プログラムを開発し実施する。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学向けガイドブックを、必要に応じて改定する。 ・ イベント等に内部質保証での学生参画事例の共有を図る。 ・ 学生評価者の候補者リクルートを試行的に行う。 ・ 学生の研修プログラムについて、前年度の実施内容を検証し、改善点があれば改善し実施する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学向けガイドブックを、必要に応じて改定する。 ・ イベント等において、内部質保証での学生参画事例の共有を図る。 ・ 学生評価者の候補者リクルートを本格的に行う。 ・ 基準策定や評価プロセスにおける学生参画を開始する。 | |

2. 専門職大学院認証評価を通じた支援

| 中期目標 | | | |
|--|--------|---|--|
| 専門職大学院の特性に対応した認証評価の体制を維持しつつ、教育の質向上を支援する。また、ワークショップや研修の機会の充実を図り、専門職大学院における質保証の重要性を高めるとともに、職能団体や海外機関等との連携を深め、高度専門職業人の養成を担う大学院としての質向上を促す。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| <p>(1) 専門職大学院認証評価の柔軟性と多様性の向上 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準における専門職大学院に共通する事項を定期的に見直し、最新の高度専門職業人養成に必要な教育や社会の動向を踏まえるよう基準を改定する。 ・基準改定時には、分野ごとの特徴や独自の要件に応じた基準を必要に応じて追加し、部分的に評価項目をカスタマイズすることで、評価の柔軟性を確保する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル基準を参照しつつ、社会動向（法令改正を含む）、分野の特徴や独自の要件等に応じ、法科大学院基準、グローバルコミュニケーション系専門職大学基準の改定を行う。 | <p>基準委員会、各種評価委員会</p> <p>企画・調査研究課、評価第2課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル基準を参照しつつ、社会動向（法令改正を含む）、分野の特徴や独自の要件等に応じ、経営系専門職大学院認証評価基準、知的財産専門職大学院基準の改定を行う。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル基準を参照しつつ、社会動向（法令改正を含む）、分野の特徴や独自の要件等に応じ、デジタルコンテンツ系専門職大学院基準の改定を行う。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル基準を参照しつつ、社会動向（法令改正を含む）、分野の特徴や独自の要件等に応じ、公共政策系専門職大学院基準の改定を行う。 ・モデル基準に基づく改定が当年度中に一巡することを踏まえ、引き続き用いるか含めモデル基準の在り方について検討し、必要に応じてモデル基準の改定を行う。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会動向（法令改正を含む）、分野の特徴や独自の要件等に応じ、公衆衛生系専門職大学院基準、グローバル法務系専門職大学院基準、広報・情報系専門職大学院基準の改定を行う（モデル基準を継続使用する場合は、それも参照する）。 | |

| | | | |
|--|--------|---|---|
| <p>(2) 専門職大学院向けワークショップ及び研修の拡充 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の分野に限定されているワークショップを拡充し、専門職大学に共通する質保証や教育改善に関するテーマを扱うワークショップや研修等を実施する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップや研修等に関し、ニーズ調査等を行い、総合的な実施計画を立案する（毎年行っている経営系についても開催頻度の見直しを行う）。 ・経営系のワークショップを、委員会等の要望を踏まえて開催する。 | <p>各種評価委員会、 評価第2課</p> <p>企画・調査研究課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・開催計画に沿って企画の立案を行い、実施する（開催年度に当たる場合のみ）。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| <p>(3) 専門職大学院へのニーズ調査と支援強化の体制整備 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職大学院に対して定期的にニーズ調査を行い、現在の支援体制や評価プロセスに対する要望・課題を把握する。この結果に基づき、支援の改善策や評価プロセスを継続的に見直す。 ・各専門分野の職能団体、産業界との連携を強化し、評価基準や評価プロセスに対する意見の聴取、評価への参画など、高度専門職業人の養成を担う専門職大学院の質向上に資する取り組みを充実させる。 ・経営系専門職大学院認証評価事業において、海外機関との連携に向けた対話を継続するとともに、加盟機関・協定締結機関とも機会を捉えて交流等を図り、評価の国際通用性の向上、最新動向の把握を目指す。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価申請大学院に対して評価実施後に実施しているアンケートを継続し、現在の支援体制や評価プロセスに対する要望や課題を把握し、各分野の基準改定時等に随時反映する。 ・基準改定の際にパブリックコメントを行うに際しては、各専門分野の職能団体等に対しても案内を行う。 ・実地調査の際に、各専門分野の職能団体、産業界からの意見聴取を取り入れる（基準改定にあわせて順次実施）。 ・経営系専門職大学院認証評価事業において、連携に向けた可能性について協議を行った AACSB と対話を継続するとともに、加盟機関・協定締結機関である AAPBS・EFMD とも機会を捉えて交流等を図る。 | <p>各種評価委員会、 基準委員会</p> <p>評価第2課、企画・調査研究課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |

3. 分野別評価を通じた支援

| 中期目標 | | | |
|--|--------|--|--|
| 現状の歯学・獣医学の分野別評価の体制を維持しつつ、教育の質向上を支援する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| <p>(1) 歯学・獣医学の分野別評価の質の維持・向上 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準を定期的に見直し、最新の教育・研究動向や国際基準に合致するように改定する。 ・評価結果に基づくフォローアップシステムを強化し、対象大学が改善策を具体的に実行できるようサポートを拡充する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・基準改定、フォローアップシステムの強化に向けた情報収集（アンケートの実施、調査研究協力者会議・海外の分野別評価等の動向フォロー等）を行う。 | <p>各種評価委員会、基準委員会</p> <p>評価第2課、企画・調査課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯学教育に関する基準について、最新の教育・研究動向や国際基準に合致するように改定する。 ・歯学教育における評価結果に基づくフォローアップシステムについて、現行の専門職大学院認証評価の在り方を参考としながら検討を行い、サポートの充実・拡充を図る。 ・両評価の基準改定、フォローアップシステムの強化に向けた情報収集（アンケートの実施、調査研究協力者会議・海外の分野別評価等の動向フォロー等）を行う。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・両評価の基準改定、フォローアップシステムの強化に向けた情報収集（アンケートの実施、調査研究協力者会議・海外の分野別評価等の動向フォロー等）を行う。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・獣医学教育に関する基準について、最新の教育・研究動向や国際基準に合致するように改定する。 ・獣医学教育における評価結果に基づくフォローアップシステムについて、現行の専門職大学院認証評価の在り方を参考としながら検討を行い、サポートの充実・拡充を図る。 ・両評価の基準改定、フォローアップシステムの強化に | |

| | | | |
|--|--------|--|----------------------|
| | | 向けた情報収集（アンケートの実施、調査研究協力者会議・海外の分野別評価等の動向フォロー等）を行う。 | |
| （２） 分野別評価におけるネットワークの強化と活用 [達成目標] ・定期的なワークショップやシンポジウムを開催し、ベストプラクティスを共有する。 ・関連分野の職能団体・学会等との連携を強化し、分野別評価の有効性を発信して認知度を高める。 | 2025年度 | ・ワークショップや研修等に関し、ニーズ調査等を関連分野の職能団体・学会等を含めて行い、総合的な実施計画を立案する。 | 各種評価委員会 評価第2課 |
| | 2026年度 | ・開催計画に沿って企画の立案を行い、実施する（開催年度に当たる場合のみ）。 ・実施にあたっては職能団体・学会等との連携を図り、分野別評価の有効性に係る情報発信にも努める。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |

4. 国際共同認証の推進と質保証機関間の協力強化

| | | | |
|--|--------|--|---------------------------------------|
| 中期目標 | | | |
| 国際共同認証（iJAS）の実施を拡大し、日本国内の大学が国際的に一層認められる質保証体制を確立する。各国の質保証機関と協力し、複数の国や地域で通用する評価基準の策定に寄与する。これにより、大学がグローバルな競争力を持ち、国際的な学生・教職員の流動性を高める環境を提供する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| （１） iJAS の拡大と評価基準の国際化 [評価指標] ・各国の教育制度や文化的背景を考慮しながら、複数の国や地域で通用する評価基準を策定する。また、iJAS の運営機関を増やし、国際共同認証の適用範囲を拡大させる。 ・プログラム評価の国際的基準や評価プロセスを検討 | 2025年度 | ・国際的なプログラム評価基準について情報収集を行い、iJAS で実施できるか運営機関と検討を行う。 ・国内外の大学関係者に向けて、iJAS の意義や評価基準についての説明会を実施し、国際共同認証に関する認知度を向上させる。 | 共同認証評価委員会、基準委員会 国際企画室、企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・各国の教育制度や文化的背景に関する調査を実施し、複数国の大学関係者や質保証機関から意見を収集し、 | |

| | | | |
|--|---------|---|-------|
| <p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iJAS の普及活動を展開し、国内外の大学の認知度を向上させる。 | | <p>評価基準の国際通用性を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム評価の国際基準や評価プロセスを策定する。 ・ 国内外の大学を対象とした説明会を実施し、iJAS の利点を周知する。 | |
| | 2027 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度のフィードバックをもとに、現行の基準の改定に関する意見交換を運営機関で実施する。 ・ 認定校の事例をまとめ、国内外の大学や質保証機関に向けて発信する。 | |
| | 2028 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各国の運営機関と協議し、評価基準の定着状況と改善点を検証する。改善案を反映した基準の改定を行う。 | |
| | 2029 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の取り組みを総括し、次期計画を策定する。普及活動や国際連携の成果を振り返り、さらなる連携や基準の拡充に向けた方向性を検討する。 | |
| <p>(2) 質保証機関間の国際連携と協力体制の強化 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営機関共同のワークショップの開催、INQAAHE や APQN などの国際的な質保証機関ネットワークでの情報発信を推進する。 | 2025 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ INQAAHE Conference 等の国際会議にて情報発信を行う。 ・ 運営機関の参画を増やすため、各国の質保証機関と交渉を行う。 | 国際企画室 |
| | 2026 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に同じ。 | |
| | 2027 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営機関間で基準や評価プロセスに関するワークショップを開催する。 | |
| | 2028 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営機関の参画を増やすため、各国の質保証機関と交渉を行う。 | |
| | 2029 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の活動成果を総括し、次期計画に向けた連携拡大と活動の強化を図る。 | |

II. 質保証活動の充実・発展に向けた先導 (vision 2)

1. 認証評価制度全体の質の向上への寄与

| 中期目標 | | | |
|--|--------|---|----------------------|
| 他の質保証機関との連携を視野に入れつつ、認証評価制度全体の質の向上を図る。デジタル技術の導入や評価プロセスの改善を進め、効率的かつ効果的な質保証を実現する。国内外の大学の多様なニーズに対応し、制度の柔軟性を高めることで、質保証活動の発展に寄与する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 情報交換及びベストプラクティスの共有 [達成目標] ・国内外の質保証機関との定期的な情報交換会を開催し、評価プロセスにおけるベストプラクティスや、課題、改善策を共有するとともに、評価の効率化の手法を検討する。 | 2025年度 | ・評価校における内部質保証のベストプラクティスを情報共有する。 ・「フォローアップミーティング」(前述)等の取り組みについて情報共有し、評価プロセスにおける課題を見出したり、改善策を検討できるようにする。 | 評価事業部、企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。また、第5期機関別認証評価の検討状況に関して情報を共有する。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| (2) 共同研修及び人材育成プログラム [達成目標] ・評価に携わる評価者やスタッフを対象とした研修を、国内外の機関と共同で実施する。 | 2025年度 | ・職員対象の海外インターンシップのプログラムを充実させるため、関係機関と協議する。 | 企画・調査研究課、国際企画室、評価事業部 |
| | 2026年度 | ・合同職員研修への参加機関を増やすため、関係機関と協議する。 | |
| | 2027年度 | ・海外インターンシップ制度について、参加者アンケートや上長からのヒアリング等を実施し、その成果を検証する。 ・海外の質保証機関と評価者を対象とした合同研修を検討する。 | |
| | 2028年度 | ・海外の質保証機関と評価者を対象とした合同研修を実施する。 | |

| | | | |
|--|--------|---|--------------------|
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| (3) デジタル技術を活用した評価プロセスの効率化 [達成目標] ・AIの活用可能性も探りつつ、評価プロセス全体をデジタルプラットフォーム上で実施できるシステムを導入し、データ収集、評価までを一元管理できるようにする。 | 2025年度 | ・2024年度に検討した内容を踏まえ、評価作業のICT化に向けシステム構築をする。 | 評価事業部、総務課、企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・前年度に構築したICTシステムの運用を開始する。 ・AIを評価プロセスで用いる可能性について情報収集及び検討をする。 | |
| | 2027年度 | ・評価作業のICTシステムについて、昨年度の使用状況を検証し、改善すべき課題を明らかにする（年度内に対応可能なものは対応して運用する）。 ・AIの利用について、上記の課題解決に有用かつコスト等に鑑みて可能である場合は、導入に向けて検討をする。また、データの利活用に関してAIの利用が同様に可能である場合は、導入に向けて検討する。 ・必要に応じ、データ利用の方針等を整備する。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 ・認証評価第5期におけるAIその他ICT技術の活用策を検討する。 | |

2. 社会的認知度の向上

| 中期目標 | | | |
|---|--------|---|-------|
| 認証評価制度の社会的認知度を向上させ、制度の透明性と信頼性を高める。大学関係者、学生、そして広く社会に向けた広報活動を強化し、認証評価の意義を理解してもらうための啓発プログラムを展開する。また、認証評価の成果に基づくデータを公開し、透明性を高めることで、認証評価が大学の質向上と社会的信頼の基盤として機能する環境を整える。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 認証評価の社会的認知度向上に向けた広報活動の強化 | 2025年度 | ・ホームページをリニューアルし、高等学校関係者等、大学関係者以外の人々が認証評価制度について理解し | 広報委員会 |

| | | | |
|---|--------|---|----------|
| <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアルし、高等学校関係者をはじめ、大学関係者以外の人を対象としたページを作るとともに、SNS等による情報発信を充実させて、認証評価制度の意義を広める。 ・想定するターゲットや周知する内容に応じてノベルティやパンフレット、動画等のさまざまな媒体を活用し、社会に向けた積極的な広報活動を展開する。 | | <p>やすいページを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した新たな情報発信や、ノベルティの配付、ターゲットを絞ったパンフレットや動画の作成等により、認証評価制度や本協会の評価に関するさらなる情報発信を行う。 ・企業を対象とした周知方法や新たな情報発信の方法等について、広報委員会で検討する。 | 総務企画課 |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した新たな情報発信や、ノベルティの配付、ターゲットを絞ったパンフレットや動画の作成等により、認証評価制度や本協会の評価に関するさらなる情報発信を行う。 ・企業を対象とした周知方法や新たな情報発信の方法等について、広報委員会で検討する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| <p>(2) 認証評価の意義を大学関係者及び学生向けに啓発するプログラムの展開</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価に対する理解を深め、制度への支持を高めるために、大学教職員や学生向けに認証評価の重要性やその影響を説明するためのセミナーやワークショップを開催する。特に、学生には自身が所属する大学の評価結果や、それがどのように教育の質向上に寄与しているかを知ってもらうための活動を強化する。 ・学生へのアンケート調査を実施し、認証評価に対する理解度や期待を把握した上で、情報発信を行う。 | 2025年度 | ・基準設改定時のパブリックコメントの機会にあわせ、学生に本協会の活動を周知する。 | 企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 ・質保証に参画する学生に限らず、全ての学生を対象にしたセミナー、ワークショップを企画・実施する。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| <p>(3) 認証評価結果に基づくデータの公開と透明性の</p> | 2025年度 | ・認証評価を通じて見られた優良事例や、問題事項の改善 | 企画・調査研究 |

| | | | |
|---|--------|---|---------|
| 向上 [達成目標] ・評価結果に基づき大学が取り組んだ改善事例を発信する。 ・公開シンポジウムやフォーラムを定期的開催し、評価結果と改善事例について議論し、社会全体に認証評価の有効性をアピールする。 | | 事例等について、大学と共有するイベントを実施する。 | 課、評価事業部 |
| | 2026年度 | ・認証評価を通じて見られた優良事例や、問題事項の改善事例等について、大学だけでなく社会も交えて共有するイベントを実施する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |

Ⅲ. 調査研究を通じた高等教育の発展と質保証システムの向上への寄与 (vision 3)

1. 調査・研究活動の充実

| 中期目標 | | | |
|--|--------|--|------------------------------|
| 高等教育における質保証の効果や改善策を探るため、調査研究を不断に行う。特に、質保証の仕組みに関することや新しい教育モデル、AIを活用した学習支援システムに関する研究を推進し、大学教育の質の向上に貢献する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 調査研究プロジェクトの実施 [達成目標] ・質保証の仕組みに関することや新しい教育モデル、AIを活用した学習支援システムに関するテーマ別の調査研究プロジェクトを実施する。(1年に2本程度) | 2025年度 | ・2024年度から開始したプロジェクトを継続する。 | 大学評価研究所 企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・新規プロジェクトを開始する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度開始プロジェクトを継続実施する。 | |
| | 2028年度 | ・新規プロジェクトを開始する。 | |
| | 2029年度 | ・前年度開始プロジェクトを継続実施する。 | |
| (2) 外部資金の獲得と研究の持続可能性の確保 [達成目標] ・国や地方自治体、民間企業等の研究助成金制度に積極的に応募し、資金を確保する。 ・調査研究成果をもとにした政策提言を行い、政府機関 | 2025年度 | ・次年度からの新規プロジェクトについて、科研費の利用可能性を検討し、申請する。 ・国内外問わず、利用可能な助成制度等があれば、その都度利用の可能性を検討し、申請する。 ・必要かつ可能な場合、実施中の調査研究を踏まえて認証 | 大学評価研究所 基準委員会 企画・調査研究課 |

| | | | |
|------------------|--------|--|--|
| や関係機関との関係構築を進める。 | | 評価制度に関して政府等に提言する。 | |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内外問わず、利用可能な助成制度等があれば、その都度利用の可能性を検討し、申請する。 ・必要かつ可能な場合、政府等に提言する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度からの新規プロジェクトについて、科研費の利用可能性を検討し、申請する。 ・国内外問わず、利用可能な助成制度等があれば、その都度利用の可能性を検討し、申請する。 ・必要かつ可能な場合、政府等に提言する。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内外問わず、利用可能な助成制度等があれば、その都度利用の可能性を検討し、申請する。 ・必要かつ可能な場合、政府等に提言する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度からの新規プロジェクトについて、科研費の利用可能性を検討し、申請する。 ・国内外問わず、利用可能な助成制度等があれば、その都度利用の可能性を検討し、申請する。 ・必要かつ可能な場合、政府等に提言する。 | |

2. 質保証活動の充実・発展

| 中期目標 | | | |
|---|--------|--|-----------------------|
| 調査研究の成果を本協会の質保証活動に反映させ、認証評価の精度と実効性を高める。また、各大学が評価結果をもとに改善策を具体的に講じられるよう、大学への支援においても調査研究成果を十分に活用する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 調査研究成果を活用した評価基準の改善 [達成目標] <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準や評価方法の見直しに当たり、調査研究で得られた知見を活用する。 ・外部の専門家や大学関係者を招いたワークショップ | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、調査研究で得た知見をもとに、内部質保証実質化のための参考資料を更新する。 ・スタディー・プログラムの改変・拡大、その他の企画を検討し、外部の専門家や大学関係者を招いたワークショップの実現に向けて取り組む。 | 基準委員会 企画・調査研究課 |

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>を開催し、評価基準の改定に役立つフィードバックを収集する。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・基準・方法を見直す評価事業について、調査研究の成果を活用し、改善に結び付ける。 | |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、調査研究で得た知見をもとに、内部質保証実質化のための参考資料を更新する。 ・前年度の検討に基づき、外部の専門家や大学関係者を招いたワークショップを実施する。 ・基準・方法を見直す評価事業について、調査研究の成果を活用し改善に結び付ける。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・機関別認証評価の第5期（2032年度～）に向け、基準改定の検討を開始する（前述）。 ・他、前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・基準策定や評価プロセスにおける学生参画の運用を開始する。 ・他、前年度に同じ。 | |
| <p>（２） フォローアップ体制の強化と個別サポートの充実</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ派遣に加え、評価結果の通知後に大学ごとに相談会等を実施し、フォローアップ体制を強化する。 ・大学関係者に対しスタディー・プログラム等の研修を提供し、各大学における質保証活動の充実・発展を期する。 ・調査研究成果をもとに、質保証活動に直接活用できる具体的な改善手法やガイドラインを大学に提供し、質保証活動の実質化を促す。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタディー・プログラムを実施（2プログラム）する。 ・フォローアップすべき事項について、ニーズの把握（実務説明会の個別ブースでの相談内容等から把握）及び企画を行う。 | <p>各種評価委員会、 基準委員会</p> <p>評価第1課、企画・調査研究課</p> |
| 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタディー・プログラムの実施（2プログラム） ・ニーズ把握に基づくフォローアップの実施。 | | |
| 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | | |
| 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | | |
| 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | | |

IV. 持続可能で国際的に通用する組織、制度の構築 (vision 2,4)

1. 持続可能かつ国際基準に充足した組織体制の構築

| 中期目標 | | | |
|--|--------|---|--------------------------------|
| <p>持続可能な組織運営を目指し、国際基準に対応できる組織体制を整備する。効果的な業務推進を促進し、安定した財務体制を堅持しつつ、メリハリのある支出を行うことで、限られた資源を最適に活用し、組織の持続可能性を高める。また、収益源の多様化について検討を進め、予期せぬ財務リスクに備える。</p> | | | |
| 中期計画 | | | |
| <p>(1) 持続可能な組織運営に向けた質保証システムの見直しと運用</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省による評価（機関別7年ごと、専門職大学院5年ごと）及び INQAAHE による外部評価（5年ごと）を活用した局内の改善システムを見直し、運用する。 自己点検・評価において会員校からの意見を聴取する仕組みを構築し、実行する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を効率的・効果的に実施する方法を検討し、改善・充実を図るとともに、自己点検・評価や外部評価結果等を事業の改善につなげる仕組みを見直す。 2026年度に実施する自己点検・評価に向けて、INQAAHE の評価基準に加え、独自の基準を検討する。 自己点検・評価において、本協会の事業活動等に関して会員大学からの意見を聴取する仕組みを構築する。 | <p>自己点検・評価委員会</p> <p>総務企画課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 2027年度に INQAAHE の評価を申請するため、自己点検・評価を実施する。その際、事業活動等に関して会員大学から意見を聴取する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> INQAAHE の評価を受ける。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> INQAAHE の評価結果を受け、改善計画 (enhancement plan) を立てるとともに、2025年度に構築した評価結果を改善につなげる仕組みに従い、改善に着手する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に続き、改善計画 (enhancement plan) に従って改善を図る。 内部質保証システムの適切性を検証する。 | |
| (2) 組織体制及び業務の見直しと運営コストの最適化 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 組織全体で現行の業務内容・プロセスを確認し、課題の特定を行い、現状を分析する。また、業務の整理統合廃 | <p>全部署</p> <p>DX化関係：評価事</p> |

| | | | |
|---|--------|---|------------------------|
| <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織全体の業務効率化と生産性向上を図るため、現行の業務を見直し、重複や非効率な業務を整理統合し、資源の有効活用と冗費節減を実現する。 組織運営の効率化を図るため、デジタル技術を活用した業務プロセスの見直しを行う。 人的資源の適正配置を行い、効果的な業務推進に取り組み、組織全体の持続可能性を高める。 | | <p>止と人的資源の最適な配置を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の現状分析を踏まえ、DX化が可能な業務の洗い出しを行う。特に、評価に係るデジタルプラットフォームの構築と評価結果のデータ活用について検討を進める。 | <p>業部、企画・調査研究課、総務課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 業務のDX化検討を進め、可能なものから実現する。 必要に応じ業務の整理統合廃止、人的資源の再配置を進める。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| <p>(3) 財務状況の可視化と情報共有</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の財務状況と今後の予測をできるかぎり精度を高く積算し、これらを組織で共有することにより、組織全体で経営に対する意識が持てるようにする。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 本協会の財務状況と今後の予測を可視化し、役員だけでなく職員に共有するための方策を検討し、可能であれば年度中に実施する。 | <p>総務課</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| <p>(4) 新規収益源の開拓と収益構造の多様化</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価手数料や会費だけでなく、資産運用の拡大、大学へのコンサルティングや研修プログラム、海外向けの評価システムの提供など新たな収益源について検討を行う。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 資産運用関係の規程を改定し、資産運用の幅を広げる。 各部署において、新たな収益源確保と収益構造の多様化の可能性について検討する。 | <p>全部署</p> |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 各部署において、新たな収益源確保と収益構造の多様化の可能性について検討する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 検討した新規収益源と収益構造の多様化について、実現可能性の高いものを常務理事会に諮り、具体的な準備を進める。 | |

2. 持続可能かつ国際基準に充足した制度の充実

| 中期目標 | | | |
|---|--|---|-----|
| 大学基準協会の質保証活動が国際基準に適合するとともに、効率的かつ効果的な運営体制を確立する。透明性と公正性を高めるための制度を整備することで、ステークホルダーの信頼を獲得し、持続可能な組織となるよう努める。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 理事会の運営に関するガバナンス強化 [達成目標] ・理事会での審議内容や重要な意思決定に関する情報を適切な範囲で会員大学に共有し、意思決定の透明性を確保する。 ・組織全体のリスク管理(特に財務リスク、法的リスク)を意識し、コンプライアンスに則った組織運営を行うために必要な規程の整備等を進める。 ・ガバナンスが十分に機能した組織運営を推し進めるため、監事の機能を強化する。 | 2025年度 | ・ホームページのリニューアルに合わせ、理事会の審議内容や重要な意思決定に関する情報公開のあり方を検討し、可能であれば、リニューアルと同時に公開する。 ・必要な規程の改定及び制定を検討し、実施する(購買・調達関係、資産運用関係、渉外費関係、謝金関係等)。 ・監事のあり方について検討する。 | 総務課 |
| | 2026年度 | ・必要な規程の改定及び制定を検討し、実施する(購買・調達関係、資産運用関係、渉外費関係、謝金関係等)。 ・監事のあり方について検討する。 | |
| | 2027年度 | ・必要な規程の改定及び制定を検討し、実施する(購買・調達関係、資産運用関係、渉外費関係、謝金関係等)。 ・監事のあり方について検討結果に基づく施策を実施する。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | (2) 国際基準に基づく評価プロセスの改善と定期見直し [達成目標] ・国際的な質保証機関ネットワーク(INQAAHE、APQN等)の最新基準やベストプラクティスに基づき、定期的に評価基準やプロセスを見直し、国際的な信頼性を強化する。 | 2025年度 | |
| 2026年度 | | ・前年度に同じ。 | |
| 2027年度 | | ・前年度に同じ。 | |
| 2028年度 | | ・前年度に同じ。 | |
| 2029年度 | | ・前年度に同じ。 | |

V. 会員サービスの充実と大学のニーズへの対応 (vision 5)

1. 会員サービスの充実と会員の帰属意識の向上

| 中期目標 | | | |
|--|---------|--|-------------------------|
| 会員大学への情報提供の充実や、個別のニーズに応じた会員大学へのサポートの強化、会員同士の交流機会の充実化等により、会員のメリットを充実させ、会員の帰属意識の向上を図る。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 会員大学への情報提供の充実化 [達成目標] ・会員ページのリニューアルによって、本協会が発信する情報を充実させるとともに、メルマガ等の新たな情報発信ツールを始めることで、より積極的な情報提供を行う。 | 2025 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルにあわせて2種類の会員ページを一本化し、会員向けの情報ページを充実させる。 ・メルマガ等によって、会員校向けに会員マイページやnote等の更新を知らせるなど、積極的な情報提供を行う。 | 広報委員会 総務企画課 |
| | 2026 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・会員大学のニーズを把握し、情報発信において閲覧しやすい工夫や提供する情報の内容、提供方法等、必要に応じた見直しを検討する。 | |
| | 2027 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の検討結果に基づき、会員マイページやメルマガ等の充実を図る。 ・会員マイページやメルマガ等の他に、新たな情報提供の方法を検討する。 | |
| | 2028 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の検討結果をもとに、会員大学への情報提供を充実させる。 | |
| | 2029 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| (2) 会員同士の交流の機会の提供 [達成目標] ・総会や各種イベント等において、会員同士が意見交換する機会や懇談する機会を充実させ、会員同士の交流や連携を促進させる。 | 2025 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・総会を対面で開催し、会員同士の意見交換が活発に行える機会を提供する。 ・大学職員との合同研修会における内容・方法を見直し、参加者を増やすとともに交流を深める機会になるよう工夫する。 | 常務理事会 総務企画課及び各部署 |

| | | | |
|--|--------|--|------------|
| | | ・会員大学が集まる機会（各種イベント等）において、交流を促進する方策を検討する。 | |
| | 2026年度 | ・新たに、会員同士の交流を図るための機会・仕組みを検討する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度の検討結果をもとに、新たな交流を実行する。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| （３） 会員大学のニーズの把握と会員メリットの充実化 [達成目標] ・会員大学が本協会に求めることを把握するため、意見や要望を受け付ける機会や会員同士が議論する機会を設け、会員メリットの充実につなげていく。 | 2025年度 | ・総会等のアンケートや会員マイページにおいて、会員大学から意見や要望を受け付ける機会（場）を設ける。 ・会員同士が本協会に求めることを議論する機会（場）を設ける。 | 総務企画課及び各部署 |
| | 2026年度 | ・前年度の取組みを継続するとともに、寄せられた要望への対応や非会員大学への会員のメリットの周知方法について検討する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度の検討結果を実行に移す。 | |
| | 2028年度 | ・前年度までの取組みを振り返り、さらなる会員メリットの充実に向けて検討する。 | |
| | 2029年度 | ・前年度の検討結果に基づいて、会員メリットとなる取組みを実行する。 | |

2. 大学のニーズへの対応

| |
|--|
| 中期目標 |
| 各大学が抱える多様な課題に対応できる柔軟で実務的な質保証支援を提供し、個別のニーズに応じたサポートを強化する。大学の成長と発展を促すため、具体的な課題解決を重視したサービスを拡充する。 |
| 中期計画 |

| | | | |
|--|--------|--|----------|
| (1) 大学ごとの個別アドバイザーサービスの提供 [達成目標] ・各大学のニーズに応じて、カスタマイズされたコンサルティングや研修プログラムを提供し、大学個別の課題解決に貢献する。 | 2025年度 | ・スタッフ派遣制度を強化する（対応可能な職員の能力強化、委員会委員等で派遣可能な者の割り出し等を含む）。 | 企画・調査研究課 |
| | 2026年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |

VI. 上記 I ～ V のための環境整備等

1. 人材の確保・定着と育成のための取り組み

| 中期目標 | | | |
|--|--------|---|------------|
| 業務の高度化、多様化に対応でき、変化の時代にあっても組織を牽引できる人材の確保と育成を推進する。また、「働きやすさ」はもとより、職員一人ひとりが「働きがい」を持って働くことのできる組織を目指し、必要な制度を整備する。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| (1) 職員育成プログラムの強化 [達成目標] ・職員一人ひとりが大学基準協会の職員としての意識を高め、知識・スキル・態度のいずれにおいても向上していけるよう、研修プログラムを強化する。 | 2025年度 | ・「大学基準協会職員像」の職員への周知を継続し、各到達レベルの達成を支援するための研修を企画・実施する。 ・国内の質保証機関との連携に基づく共同研修プログラムを充実させる。 | 総務企画課及び各部署 |
| | 2026年度 | ・前年度に実施した各研修の取組みの効果を踏まえ、内容・方法の充実・改善を図る。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| (2) 各職員の働きがいを高めるための施策の推進 [達成目標] | 2025年度 | ・所属長と職員の面談制度を試行する（専任職員対象）。 ・上記面談制度の開始に向けて、管理職の研修を実施する。 | 総務課 |

| | | | |
|---|--------|--|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・将来のキャリアパスを見据えて、各職員に求める役割と期待を伝え、目標を設定・確認するための定期的な面談を実施する。 ・職員に大学基準協会のミッション・理念を伝え、本協会で働く意義を浸透させる機会を増やす。 ・部署横断型プロジェクト等を設け、職員同士のコミュニケーション活性化を図るとともに、職位を問わず挑戦できる機会を与える。 ・物価等の社会情勢と本協会の財務状況を考慮したうえで、可能な範囲で職員の賃金引き上げを検討する。賃金引き上げにあたっては、組織への貢献や努力に比例した加給とするなど、業務へのモチベーションの向上を考慮する。 ・現状を正しく認識し、部下の働きがいを高める指導等が可能となるよう、管理職研修を実施する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・メンター制度を試行する（入職2年目までの専任職員対象）。 ・職員の賃金引き上げの実現可能性とそのあり方について検討する。 | |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・面談制度の試行状況を踏まえて、制度を正式導入する。 ・メンター制度の試行状況を踏まえて、制度を正式導入する。 ・賃金引き上げについて、実現可能であれば実施する。必要な制度があれば、導入する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・賃金引き上げについて、実現可能であれば実施する。必要な制度があれば、導入する。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に同じ。 | |
| <p>(3) 国際的なネットワークの構築と交流促進 [達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の質保証機関との連携を強化し、定期的な交流やシンポジウムを開催し、最新の知見を共有し、質保証の実践や経験を学び、専門人材の育成に寄与する。 ・国際会議や研修への職員の参加を促進し、実務経験を積む機会を提供する。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の主要な質保証機関との関係構築を進め、今後の協力体制について協議する。 ・職員の国際会議や研修への参加計画を策定し、対象者の選定や費用確保を行う。 | 国際企画室 |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MOU締結機関との年1回のオンライン交流会を開始し、相互の最新の活動や知見を報告し合う。 ・選定された職員が海外研修に参加し、報告会を開催することで他の職員にも学びの機会を提供する。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実務経験を学べるよう、質保証の課題をテーマに合同ワークショップを開催する。 ・国際会議や研修の参加者を前年より増やし、実務経験を積む機会を増やすとともに、研修内容を内部で共有する。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MOU締結機関との交流会を年2回に増加し、テーマ別の | |

| | | | |
|--|--------|---|--|
| | | <p>ディスカッションやベストプラクティスの共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外研修で得た知見や実務経験をまとめ、協会内外での発表や報告書の作成を通じて成果を共有する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 国際会議や研修で得た知見を活かし、職員が質保証活動の改善プロジェクトに積極的に参画する。 5年間の連携活動の成果を評価し、次期計画に反映させる。 | |

2. 就労環境の整備、充実

| 中期目標 | | | |
|---|--------|---|----------|
| 就労環境の整備を進め、職員の生産性とモチベーションを高めることで、組織全体を活性化し、大学基準協会の質保証活動のさらなる向上を目指す。 | | | |
| 中期計画 | | | |
| <p>(1) 職場の物理的環境の改善</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> オフィスの環境を見直し、必要な改修工事を実施するとともに、適時、新たな設備等の導入を検討する。職員同士のコミュニケーション促進に効果的なレイアウトや、集中して作業できるスペースの設置など、本協会ビルで対応可能な計画を立案し、推し進める。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 3階オフィスフロア改修の計画立案を行う。 | 総務課 |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 3階オフィスフロア改修の準備を行う。 | |
| | 2027年度 | <ul style="list-style-type: none"> 3階オフィスフロア改修（コミュニケーション促進や生産性向上を意識した改修プランとする）を実施する。 | |
| | 2028年度 | <ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、上記プランに基づき他フロアも一部改修を実施する。 | |
| | 2029年度 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度に同じ。 | |
| <p>(2) コミュニケーションとチームワークの強化</p> <p>[達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的なチームミーティングや局内イベントを開催し、職員同士のコミュニケーションを促進させ、職員が自らの意見を発信しやすい環境を整える。 | 2025年度 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな局内交流プロジェクトを検討する（局内報の作成、会議室を利用した部分的なフリーアドレスの実施等）。 実現可能なものから実施する。 | 総務課及び各部署 |
| | 2026年度 | <ul style="list-style-type: none"> 実現可能なものから実施する。 | |

| | | | |
|--|--------|---|-----|
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |
| (3) 就労環境の評価と向上 [達成目標] ・就労環境の向上に関する意見聴取のため、就労環境向上チームの設置、あるいは意識調査を実施する。職員からのフィードバックを受けて、必要な取り組みを行い、職員が働きがいを持って働ける環境を継続的に整備する。 | 2025年度 | ・職員意識調査を実施する。 | 総務課 |
| | 2026年度 | ・前年度の調査結果に基づき、就労環境向上チームの設置、あるいは更なる意識調査を実施し、職員の働きがいやエンゲージメントを高める取り組みを実施する。 | |
| | 2027年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2028年度 | ・前年度に同じ。 | |
| | 2029年度 | ・前年度に同じ。 | |